学移連 OB 会第 6 回全国大会報告

引地　正之
日本学生海外移住連盟（学移連）OB 会副会長・西日本支部長
（昭和 41 年度英米語学科卒・海外事情研究会 OB）

7 月 3 日京都外国語大学で日本学生海外移住連盟（学移連）OB 会第 6 回全国大会が全国 22 大学から約 100 名及び、母校の教職員・学生 20 名が出席して盛大に開催されました。



総会は 11 号館会議室で北原正三西日本支部監査役（東京農大）の司会進行により 5 名の物故者への黙祷から始まりました。次いで松田潤次郎学移連 OB 会会長（拓植大)、引地正之西日本支部長（京都外大）の挨拶に続き、今北吉久（甲南大）議長の元で議事進行を行い、上程された議案は全て満場一致で承認され総会は終了しました。



続いて記念講演が行われ、関西学院大学からブラジルへ渡られた同学院 OB の諸氏を訪ねた「ブラジル邂逅の旅」について関西学院大学中南米研究会かりぷと会（OB 会）の夏目剛副会長が報告しました。続いて、鹿児島大学 OB、高原要次氏から一学移連健在なりーと題して学移連 OB 諸氏を訪ねて、ブラジルを訪問した時の報告を行いました。最後に㈱徳永こいのぼり徳永夕子代表取締役 ―五節句伝統文化の継承―についての講演がありました。リオデジャネイロオリンピックに鯉のぼりを 3,000 セット在ブラジル日系人に寄贈してマラソン競技の沿道で鯉のぼりを振って応援する計画も話されました。



総会には、衆議院議員田中英之氏（平成 4 年度英米語学科卒）が駆けつけてくれで、出席され学移連 OB 皆様に挨拶をしました。

総会・講演会終了後、ラチーノ学院の生徒によるバンド演奏や歌とダンスのアトラクションが屋外ステージで披露され、プロ並みの演奏・歌で出席者を魅了しました。







学生食堂リブレで行われた懇親会は、ラチーノ学院教職員・生徒を交えて海外事情研究会寺崎由依菜（英米語学科 3 年次生）会長・山津明日香（英米語学科 3 年次生）副会長の司会進行で開かれ、宮本修学移連副会長（鹿児島大）の開会の挨拶に続き、京都外大の森田嘉一理事長・総長や在名古屋ブラジル総領事アルナウド・カイシェ・ドヴェイラ氏を初め、5 名の方の祝辞に続き、京都外大海外事情研究会顧問教授の國安邦彦国際教養学科副学科長の乾杯の発声で幕を開けました。又、㈱徳永こいのぼり徳永夕子社長から総領事に日伯親善を祈念して日伯両国旗をあしらった鯉のぼりをプレゼントされました。



若き青春時代の思い出話や最近の情報交換などで懇談の華が会場狭しと咲き乱れる中、会は盛り上がり、大学の壁を越えて大いに旧交を温め、若かりし頃目的を同じくした仲間の強い絆を確認し合い、これからの新しい計画へのチャレンジ等、エネルギーと若さに溢れた交歓の場でありました。最後には、恒例になっている学移連の歌「アジアの東」を全員で元気に斉唱し、来年の再会を硬く約して、閉会となりました。

以上



なお、７月４日の京都新聞に大会の記事が掲載されました。

海外移住の志 大学枠超え

京都外大、日本学生連盟ＯＢ集う



在名古屋ブラジル総領事へのこいのぼり寄贈などが行われた学移連ＯＢ会全国大会（京都市右京区・京都外国語大）

海外移住や中南米の研究を志した全国の大学生の組織「日本学生海外移住連盟」（学移連）のＯＢ会全国大会が３日、京都市右京区の京都外国語大で開かれた。思いを共にした約１００人が参加し、大学の枠を超えて旧交を温めた。

学移連は１９５５～１９８５年まで、ＪＩＣＡの前身である外務省の外郭団体「海外移住事業団」の傘下で、メンバーが南米やカナダなどに派遣され実習調査を行うなどの活動を続けた。ＯＢ会は２０１１年に設立され、毎年全国大会を開いている。

今年のＯＢ会では、日本在住の会員らが南米に移住した学移連の元メンバーを訪ねた際の様子などを報告したり、東近江市のブラジル人学校「日本ラチーノ学院」の生徒による音楽演奏やダンスを楽しんだりした。懇親会では、リオデジャネイロ五輪の開催を記念し、在名古屋ブラジル総領事に、両国の友好のしるしとしてこいのぼりを贈った。

京都外大の卒業生でＯＢ会副会長の引地正之さん（75）は「みんなはきょうだいみたいな関係で、大切にしていきたい」と話していた。（松尾浩道）

おもな交通取り締まり

４日

【シートベルト】下鴨署＝白川通

【通行区分】木津署＝国道１６３号